



学校だより

横浜市立矢上小学校

8月号

発行日 令和2年8月18日

『伝わる心・広がる心』

校長 持尾 博之

しんと静まりかえっていた学校に、子どもたちの元気な声が戻ってきました。今年の夏休みは短いとはいえ、約2週間ぶりに友達に会うと、「元気だった?」「大きなカブトムシをつかまえたよ!」「何してたの?」「日焼けした?」…、先生や友だちと笑顔の会話があちらこちらの教室から聞こえてきます。夏休みに入るとともに梅雨明けし、今年も猛暑日が続きました。子どもたちも体調管理が大変だったことと思います。帰省や予定していたお出かけができず、家庭で過ごしたという声も少なくありません。様々な意味で普段とは違う夏休みでしたが、期間中に大きな事故やけがの報告もなく、無事に夏休み後のスタートを切ることができましたのも、保護者や地域の皆さまがあたたく見守ってくださったおかげです。心より感謝申し上げます。

授業再開の8月17日に、朝会で子どもたちに話したあるエピソードを紹介します。それは、少し前に新聞で読んだ長距離トラックの運転手さんのお話です。

“夜もずっと運転していたトラックの運転手さん。目的地まであと少しですが、だいぶ疲れています。朝七時頃、目の前を一人の小学生が手を上げて横断歩道を渡り始めました。運転手さんは疲れていたこともあって、いまいまして、急ブレーキをかけてトラックを止めました。ところが、その小学生は渡り終えた時、高い運転台を見上げて、運転手さんに笑顔で軽く頭を下げ、「ありがとう」と言ったそうです。運転手さんは、「わたしは恥ずかしかった。これからは横断歩道の前では徐行しよう。そして、もし道を渡る人がいたら、渡り終わるまで待ち、笑顔で見送ろう」と決心したそうです。”



小学生の「笑顔」と「ありがとう」の一言は、普段通りの小さな行いだったかもしれませんが、しかし、それが相手につながり、心を優しくし、その優しさが広がっていく…。コロナウイルス対応や熱中症対策でストレスが山積みなのだからこそ、矢上小学校の目標にある「(心の)手をつなぐ」ために必要な行いなのかもしれませんね、という話をしました。

「笑顔」や「ありがとう等のあいさつ」といったことは、矢上っ子が当たり前にしてきたことです。人と人が直接ふれ合う事を通じて、小さな事でも丁寧に積み重ねていきましょう。そうすれば、子どもたちにとっても、例年とは違う8月以降の行事や活動が、より充実した素晴らしいものになるのではないのでしょうか。

さて、いよいよ前期の後半が始まりました。8月17日からの授業再開ですので、まだまだ暑さ対策が必要です。コロナウイルス対策と合わせて、子どもたちが安心して学べる環境を整えていかななくてはなりません。行事や学習活動によっては、ご家庭にご協力をお願いする場面も出てくるかと思えます。ご理解ご協力をお願いします。